

(様式 1)

令和 5 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立墨田中学校
校長名	杉浦 伸一

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・ 1 年は、全教科において昨年に引き続き正答率が全国平均を上回った。また、全教科において正答率が目標値を上回った。 ・ 2 年は、国語と数学においては昨年に引き続き、英語においては新たに、正答率が全国平均を上回った。正答率を全国平均と比した標準スコアは、国語、数学、理科、英語において昨年より向上した。 ・ 3 年は、国語と数学において、昨年に引き続き正答率が全国平均を上回った。	・ 1 年は、英語における正答率が区平均を下回った。 ・ 2 年は、社会、理科、英語において、正答率が目標値を下回った。 ・ 3 年は、社会、理科、英語において、正答率が目標値を下回った。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・ 1 年の i スコアを全国平均と比した標準スコアは、51.4 である。カテゴリー別では、『生活習慣』が 52.9、『学習意欲』が 52.3 となった。 ・ 2 年の標準スコアは、51.4 である。『学習習慣』は 52.1、『学習意欲』は 51.4 となった。 ・ 3 年の標準スコアは、50.2 である。『学習習慣』は 51.7、『学習意欲』は 51.2 となった。	・ 1 年の『学習習慣』の標準スコアは、49.1 である。また、スコアにクラス間の差があり、その開きは最大 4.0 である。 ・ 2 年の『学級の絆』の標準スコアは、49.1 である。教師がほめることや認めることを意識し、生徒の所属感を高める指導が必要である。 ・ 3 年の『発信力』の標準スコアは、48.3 である。授業の中で話し合わせたり、自分の意見を主張したりさせる指導の充実が必要である。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・ 都学力調査によると、他者と協働しながら課題解決学習を行っているかとの問いに対し、肯定的な回答は 89.6%で、都平均を 4.9 上回った。 ・ 同じく、学習内容を振り返る方法を教わっているかとの問いに対する肯定的な回答は 77.3%で、都平均を 5.8 上回った。	・ 一方、授業に取り組んで「できた」「分かった」と感じる人が多いかという問いに対する肯定的な回答は 78.3%で、都平均を 4.8 下回った。後述する墨中スタンダードの一層の推進等により、授業における生徒の達成感を高める指導の充実が必要である。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) わかりやすい授業

「墨中スタンダード」を柱とし、教員一体となって授業改善に努める。特に授業や学習のユニバーサルデザイン化推進のため、次の3つの取り組みを重点とする。

- 分かりやすい授業 ▶ 目標の明示・授業のまとめ、見通し、簡易な指示、ICT活用
- 柔軟性のある授業 ▶ 情報提示の仕方、生徒の応答の仕方、生徒の取り組みの仕方
- 協働的な学びの充実 ▶ 話し合い活動の型、一人一台端末の活用

また、校内研修や指導教諭の模範授業、区中研、その他多様な校外研修の機会を通して、各教員が研鑽に努め、指導力の向上を図る。

(2) 学習の見通し・振り返り

生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れ、自主的に学ぶ態度を育む。具体的には、次の取り組みを重点とする。

- 各教科における学習カード等の活用
- 定期考査前の学習計画表の作成 ▶ 提出 ▶ 担任からの助言 ▶ 学習内容の改善
- 定期考査後の分析・練習
- 三者面談等を通じたフィードバック
- 問題データベースやふりかえりシートを活用した取り組み
- 1単位時間のふりかえり

(3) 補充教室の拡充

補充教室のさらなる充実を通じて、学習に対して苦手意識をもつ生徒に「わかる・できる」を実感する機会を与える。本校では次の補充教室を開設し、外部人材の協力を得ながら運営している。

- すみだ塾 ▶ 定期考査前の放課後補充教室
- 夏季補充教室 ▶ 夏季休業中の学習教室

3 「令和6年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・これまでの取り組みをさらに充実させ、主体的に学習する生徒を育成する。
- ・GIGAスクール構想に基づき、ICT機器を活用した学習の充実を図る。
- ・各教科において、平均正答率が目標値および全国値を上回る。
- ・正答率を全国平均と比した標準スコアが前年より向上する。